

# Plug-ins Technique



1. Doublerでセンターパン、Detuneが肝心



2. ショートディレイ、位相のスレで芯を抜く



3. ハイパスフィルターで厚みを消す



4. 再びDoublerでショートディレイ&PAN



5. オケに溶かすためにディレイ、右なら右へPAN振り切り



## 03 Plug-ins Creative Technique

### 他人には教えたくない！コーラス・ミキシングテクニック by WAVES

メインボーカルのミキシングに関してはいろいろなところに書かれていますが、コーラス、ハモリのミキシングテクニックって意外と何処にも書かれていなかったりしますよね。いくつかパターンに分けて現場時代に駆使していたテクニックをこっそり公開しようと思います。

#### しっかりと聞かせたいツインボーカルのハモリ

コブクロやゆずのようなツインボーカルのハモリは、基本は2つのトラックともにメインボーカルとしての加工をまずは施します。もちろんそこからレベルだけでバランスを取ることももちろんありますが、主旋律がどちらかはっきりしている場合には、ハモリパートを少しだけ後ろに定位させたり、音像を少しだけぼかしたい、なんてことがあるかと思う。こんな時に便利なのがDelay。今回はいろいろなパターンで活用できるWAVESのDoublerを使ってみたいと思います。このプラグインはマルチタップ・ディレイにその定位と、モジュレーション制御できるピッチシフターが組み合わされたまさにエンジニアの秘密のテクニックが詰まったプラグイン。

定番の手法としてはセンターパンで、3-10msくらいのショートディレイを掛ける（Feedbackは控えめに）（図1）。Doublerを使えばそこに少しのPitch Shiftが加えられるのがポイント、パラメーターとしてはDetuneがそれに当たります。これが程よいスパイスとなりメインを邪魔せずに浮かび上がらせる効果を発揮するのです！このピッチをずらすということの意味はお分かりでしょうか？『同じバイオリンを何本重ねてもアンサンブルにならない』と言うのは有名な話です。これは楽器、演奏者が同じためにピッチのズレが無いためにこのようなことになるのです。微妙なピッチのズレが厚みを生みサウンドを前に押し出す効果があるので、ハモリも同様にディレイで奥に押し込んだサウンドに厚みをもたせ、奥にいるけど存在感の有るサウンドメイクが出来るのだ。WAVES DoublerはこれをDetuneとModulationの2つのパラメーターで再現する。難しいことをしているのではなく、Pitch ShiftであるDetuneのパラメーターをLFOで変化させるというもの。しかし、このようなPitch Shiftと協調で動作をするプラグインはそれほど多くないのが実情です。それでは具体的なTIPSをみてみましょう。

#### HIP HOPの左右に張り付いたコーラス

もはやオケの一部と言ってもいいような存在感で左右に張り付いたようなコーラスをよく耳にしますが、どのような加工が行われているのでしょうか？これは録音時には必ずダブル（OKディックを2つ残しておくという意味）で収録をします。それをパンで左右に振り分け通常のボーカル処理よりも少しだけ強めにコンプでレベルを均します。これだけでもだいぶWALL感が出てきますが、存在感が大きすぎるので輪郭を保ったままに芯を抜きたいと思うことでしょう。きっとそうなるはず（笑）再びDoublerを登場させ、今度はちょっと多めのFeedbackでショートディレイを掛けます（図2）。ディレイ・タイムは2ms以下、少し発振したような感じにします。これを適度にブレンドしていくと位相のずれにより芯が抜けていくんですね。Pitch Shiftもううまく合わせてBigだけでもメインを邪魔しないクールなコーラスが完成です。

#### ボーカルに寄り添ったパッドのようなハモリ

上下にハモリが積み重ねる声部は多いのに暑苦しくない。そんなサウンドをサビなどでよく耳にしたいと思います。あれはどうやっているのでしょうか？メインボーカルからピッチシフトで作るとそうなるよ。といった意見は却下して、しっかりとダブルで録音するところから始めて下さい。まずはEQですがHPFで厚みを消します（図3）。LFのEQでもいいのですがトラック数が多い場合にはバツサリ切り落としてしまったほうがスッキリします。ここは両方試して欲しい厚みを確保できる方にして下さい。そして、パンニングですが、振り切りせずにPro Toolsでは60-80度から調整するのがオススメです。何故かと言うとその後のDoublerの使い方にポイントがあります。やはりココでもまずはショートディレイ（図4）。2-5ms程度のディレイでFeedbackは0にして下さい、右に定位させているものは左に、もう一方は逆にパンニングをします。これでダブルで録ったものが擬似的にクォッドに。これがなかったからパンは中間定位だったんですね。ココであまり広がり感を感じられない時はPitchずらしのテクニックとディレイ・タイムを調整してみてください。そして、オケに溶かすために30-40ms程度である程度のFeedback量を持ったディレイを今度は右のものは右に振り切りのパンに設定します（図5）。このディレイにはモジュレーション付きのPitch shiftを設定して下さい。モジュレーション量はDepthとRateで調整を行います。これに加えていくと、どんどんフワフワした感じになってきませんか？低域の加減と各トラックのディレイのゲインでかなり追い込めるはず。どこまでオケに溶かすのかはさじ加減次第ですが、ぜひとも試してみてください。

03 text by 阪田 賢一郎 ROCK ON PRO Sales Engineer

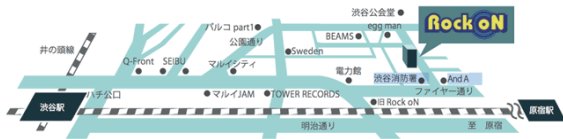
エディットの鬼としてボーカリストから恐れられていた現役時代、極限までピッチ修正ソフトを使用しないポリシーでボーカルセレクトを貰った結果、1万超えのフェードファイルを生じたことも。Pro Toolsオペレーターとしてレコーディングの現場に入りし、そのまま録音の魅力に取り憑かれスタジオエンジニアとしてキャリアをスタートさせるという異色の経歴の持ち主。現場で培った感性と機材知識を活かし、制作をより効率的により楽しくなるソリューションを提供できる幅広い視野からの機材紹介を行う。最近、沖縄楽器のそこそこいい三線を購入し、泡盛を傾けながら目下練習中！



ROCK ON PRO  
Shibuya



ROCK ON PRO  
Umeda



ROCK ON PRO ≡  
Shibuya

TEL:03-3477-1776

〒150-0041

東京都渋谷区神南1-8-18 クオリア神南フラッツ1F

営業時間: 10:00~19:00

定休日: 土・日曜・祝日（店頭は定休日なし）

店頭担当: 阪田、清水までお問い合わせください。

ROCK ON PRO ≡  
Umeda

TEL:06-6131-3078

〒530-0015

大阪府大阪市北区中崎西2丁目2-1 東梅田八千代ビル1F

営業時間: 10:00~19:00

定休日: 土・日曜・祝日（店頭は土曜も営業）

担当: 森本までお問い合わせください。

ROCK ON PRO ≡ pro.miroc.co.jp